

第22回

竹間沢車人形公演

百五十年以上前から三芳町に伝わる「竹間沢車人形」。
日本に、三芳町を含め三地域のみにしか現存していない、貴重な伝統芸能です。

2025年 **12月7日** 日 開演13:30
(開場13:00)

コピスみよし(三芳町文化会館)ホール

演目 山椒太夫/越後の兄弟/寿式三番叟/車人形教室

出演 竹間沢車人保存会、公募出演者のみなさん、須田真魚(語り)、三代目若松若太夫(説経節)

全席自由席 [一般] 1,500円 [小中高生] 500円

※障がい者手帳割引、団体割引(10名以上～)があります。詳細はお問い合わせください。

発売日 9月13日 10:00～

プレイガイド コピスみよし(三芳町文化会館)・・・049-259-3211 コピスみよしオンラインチケットサービス
三芳町立中央図書館・・・049-258-6464 三芳町歴史民俗資料館・・・049-258-6655

※未就学児はご入場いただけません。※車いす席・親子室・聴覚支援システムのご用意がございます。詳細はお問い合わせください。
※写真撮影・ビデオ録画、録音は固くお断りします。※ご予約後のキャンセル、チケット代金の払い戻しは承れません(公演中止の場合を除く)。

お問合せ コピスみよし(三芳町文化会館) ☎049-259-3211



竹間沢車人形企画展:2025年11月1日(土)から公演日まで展示コーナーにて(予定)。詳細はコピスみよしSNSをご覧ください。

Traditional Performing Art of Miyoshimachi The 22nd Chikumazawa Kuruma Ningyo Puppetry
Sun.7 Dec.2025 START 13:30 OPEN 13:00

Admission: [Adult] 1,500yen [student] 500yen *Preschool children not allowed to enter

Contact us: Coppice Miyoshi (Miyoshimachi Cultural Center) +81 (0) 49 259 3211

Kuruma Ningyo is a form of puppet theatre. The puppeteer sits on a small seat with roller wheels (rokuro kuruma) and operates the puppets (ningyo).
This kind of art is inherited in only in 3 areas in Japan, including Miyoshimachi.

主催:埼玉県 埼玉県教育委員会 三芳町 三芳町教育委員会 コピスみよし(三芳町文化会館) 埼玉県芸術文化祭実行委員会 埼玉県芸術文化祭三芳町実行委員会
企画制作:トルツリー(株式会社ケイミックスパブリックビジネス)

イベントのPRやアーティストバンク、ホール案内などの芸術文化の情報が満載! 三芳町芸術文化ポータルサイト「MAPS」 三芳町 芸術 検索



「山椒太夫」「越後の兄弟」第16回公演より 撮影：千代田路子

轆轤車に乗って命を吹き込む— 三芳町が誇る、人形芝居

「車人形」は、轆轤車(ろくろぐるま)に乗った人形遣いが、一人で大型の人形を操る独自の様式。全国でわずか三地域にしか残っていない貴重な伝統芸能です。三芳町のほかに、八王子市と、奥多摩町にも現存しており、竹間沢車人形は「埼玉県指定有形民俗文化財」に指定されています。一度は途絶えながらも、昭和に復活を遂げ、今年で復活公演から52周年。古典の名作から親子の情愛を描く物語まで、心揺さぶる演目を上演いたします。毎年恒例のコピスみよしでの公演、どうぞおたのしみください。



竹間沢車人形復活50周年のキセキ
「昨年行われた50周年記念公演の、稽古から本番までの様子に密着取材した映像をご覧ください。」

寿式三番叟

寿式三番叟は、舞台を清める舞で、その日の舞台を無事に務めあげられますようにと願いを込めて、舞台の幕開けに舞います。

越後の兄弟

道楽者の兄と、働き者の弟。別々の道を行んだ兄弟が、運命の再会を果たす。

弟が山賊に奪われた十五両の先に待っていたのは、思いがけない兄との再会と、親子三人の新たな旅立ち。涙と情けが織りなす、越後の感動物語。

昔ばなし「越後の兄弟」を親しみやすい語りと共にお届けします。今回初めて人形を操る一般公募の出演者も参加。新鮮な演技をお楽しみください。

山椒太夫

直井の浦・母子別れの段
鳴子の唄・母子対面の段

父を訪ねて旅に出た母と姉弟は、人買いに騙され、直井の浦で無情にも引き裂かれる。

姉・安寿と弟・厨子王は丹後の長者・山椒太夫のもとで過酷な労働を強いられ、安寿は弟を逃がすため命を捧げる。

時を経て、出世した厨子王は佐渡へ渡り、盲目の母と再会を果たす。

母が口ずさむ鳴子の唄に導かれ、守り本尊の力で母の視力が回復。

涙と祈りが交差する、感動の物語を、車人形保存会の人形遣いたちが、情感豊かに演じます。

車人形教室

車人形の構造や操り方をわかりやすく解説します。実際に舞台にあがって人形遣いを体験していただく方を、当日客席から募集します。

総指揮 前田益夫

演出・舞台監督 丸山昌彦

出演



竹間沢車人形保存会

竹間沢車人形は、竹間沢村の神楽師前田左近が江戸の末期から明治にかけて、吉田三芳の芸名で「吉田三芳一座」として、小さな人形を使った人形芝居から車人形に切り替え、自ら車人形の頭や道具を作り、盛んに興行をおこなった人形芝居です。大正時代になり、浪曲、映画などに押され一度は途絶えるも、埼玉県教育委員会が実施した、人形芝居用具緊急調査がきっかけとなり、昭和四十六年に再び脚光を浴びる事となりました。前田家の納戸から車人形が発見され、昭和四十七年、五十年ぶりに復活公演が実現しました。それから半世紀にわたり、保存会は竹間沢車人形を守り継いでいます。

公募出演者のみなさん

竹間沢車人形保存会では、歴史民俗資料館や文化会館で、人形遣いに興味がある方や、裏方スタッフをやってみたいという方のために、体験教室を行っております。応募されたみなさんと稽古を重ね、本日「越後の兄弟」の公演に挑みます。



語り 須田真魚

俳優、栃木県出身。劇団俳優座を経て、現在は国内外の団体を超えた様々なジャンルの舞台に立つ。近年は俳優のみならず、劇作、演出、演劇教育にも活動の幅を広げる。

主な出演作品に「タイタス・アンドロニカス」勝田演劇事務所「酒場」劇団東演「ブレイメンの音楽隊」「カデナ」ACO沖縄などがある。



説経師 三代目 若松若太夫

説経師。日本大学芸術学部文芸学科非常勤講師。一九八九年、二代目若松若太夫の公演を聴き、感動を受け入門。一九九八年、三代目若松若太夫を襲名。二〇〇〇年、東京都指定無形文化財(芸能)保持者、板橋区登録無形文化財(説経浄瑠璃)保持者にそれぞれ認定される。



会場へのアクセス

- ・最寄り駅：東武東上線「鶴瀬」または「みずほ台」駅（「池袋」駅から約30分）その後、バスがタクシーで10～15分、徒歩約45分
- ・バス：【開演前】「鶴瀬」または「みずほ台」駅からライブバスが運行しています。駅より約10分「三芳役場」下車。片道220円、現金のみ、交通系ICカード使用不可。【時刻例】鶴瀬駅西口発⑤12:40⑥12:55④13:00 ※丸数字は路線番号【終演後】鶴瀬駅西口行のシャトルバスを運行予定(無料)
- ・車：関越自動車道「所沢」ICより約15分、無料駐車場あり(250台)

竹間沢車人形 LINEスタンプ販売中! 全40種類



お問い合わせ コピスみよし(三芳町文化会館) 049-259-3211 (9:00～21:30)
埼玉県入間郡三芳町藤久保1100-1 休館日：月曜日(月曜祝日の場合は翌火曜日)